

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和5年度 技術情報第11号（普通期水稻のトビイロウンカ）について（送付）

普通期水稻のトビイロウンカについて、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（www.jppn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。



令和5年度 技術情報第11号

8月中下旬の普通期水稻で、トビイロウンカ（短翅型雌）の発生しているほ場が確認されています。ほ場をよく見回り、今後の急激な増加を見落とさないように注意して下さい。

1 対象病害虫 トビイロウンカ

2 対象作物 普通期水稻（中～晩生品種）

3 発生状況等

8月14日～22日に行った調査（29地点58ほ場）では、北薩平坦・山間で発生が認められ、発生面積率は17%（平年46%）とやや低く、発生程度は少発生であった。ただし、増殖率が非常に高い短翅型雌成虫の発生を1ほ場で確認した（図1、表1）。

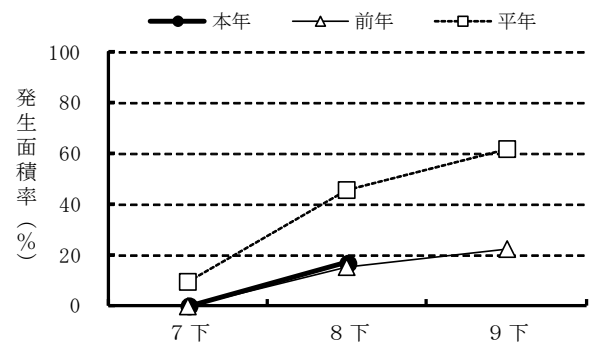


図1 トビイロウンカの発生ほ場率(普通期水稻)

4 防除対策及び防除上注意すべき事項

- (1) 9月以降に出穂期を迎える「あきほなみ」など中～晩生品種では表2を参考に薬剤を選定し、効果的な防除に努める。
- (2) 防除適期は金峰町での7月2日の飛来に由来する第3世代幼虫が9月13～20日頃、7月10日の飛来に由来する第3世代幼虫が9月22～30日頃、さつま町での6月19日の飛来に由来する第3世代幼虫が9月5～11日頃と予想される（図2）。
- (3) 育苗箱施用剤を用いた水田でも生息密度が急激に高まる恐れがあるので注意する。
- (4) 稲の株元に生息しているので、粉剤や液剤で防除する場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布する。
- (5) 発生状況は地域やほ場によって異なり、同一ほ場内でも生息分布にムラがあるので、ほ場全体の発生状況を必ず確認し、防除する。

5 調査結果

表1 トビイロウンカの発生状況（令和5年8月14日～22日）

地域 ^{注1)}	調査ほ場	程度別発生ほ場数 ^{注2)}					発生面積率 ^{注3)}		備考
		甚	多	中	少	無	本年	平年 ^{注4)}	
南薩	10	0	0	0	0	10	0	46	
北薩平坦	22	0	0	0	5	17	23	41	
北薩山間	20	0	0	0	5	15	25	45	1ほ場で短翅型雌成虫を確認
大隅	6	0	0	0	0	6	0	57	
県全体 ^{注2)}	58	0	0	0	10	48	12	47	

注1) 地域別の調査地点は下記のとおり。なお、1地点につき2ほ場を調査した。

南薩：知覧、川辺、いちき串木野、伊集院他1地点
北薩平坦：鹿児島、蒲生、始良、隼人、国分、薩摩川内他6地点
北薩山間：宮之城、鶴田、さつま、菱刈、大口、湧水他5地点
大隅：大隅、財部、鹿屋

注2) 発生程度基準は下記のとおり。

甚：虫見板による株当たり払い落とし虫数が51以上
多：" 21～50
中：" 6～20
少：" 1～5

注3) 県全体の発生面積率は、地域の栽培面積を勘案して算出した。

注4) 平年は、平成25年～令和4年までの10年間の平均。

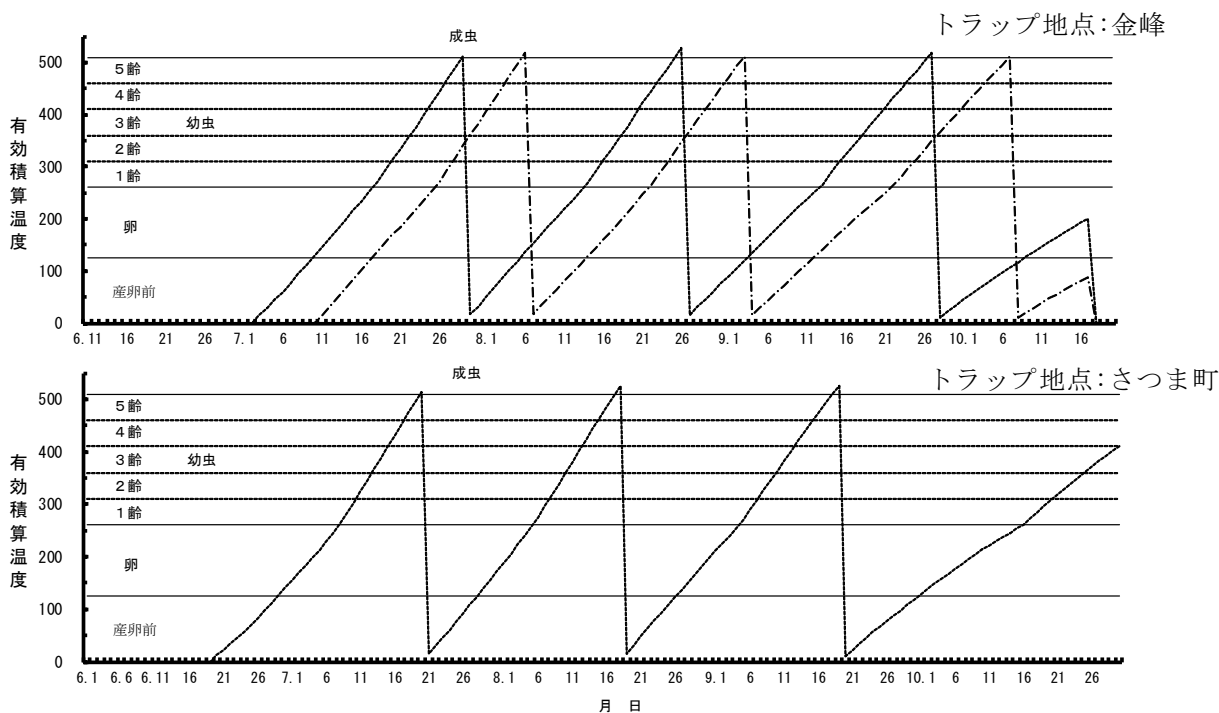


図2 トビイロウンカの有効積算温度による発生経過予測図

注) 気温は、金峰が加世田、さつま町がさつま柏原のアメダスポイントデータを利用した(8/23まで実測値, 8/24から平年値)。なお、気温の低い地域では予測より2～4日程度遅くなる。

表2 トビイロウンカの本田施用剤

農薬名	使用時期	トビイロウンカに対する有効成分	RAC コード
エクシードフロアブル	収穫7日前まで	スルホキサフロル	4C
エクシード粉剤DL	収穫7日前まで	スルホキサフロル	4C
エミリアフロアブル	収穫7日前まで	フルピリミン	4F
オーケストラスタークルエア-	収穫7日前まで	{ ベンズピリモキサン ジノテフラン	- 4A
オーケストラフロアブル	収穫7日前まで	ベンズピリモキサン	-
トレボン粉剤DL	収穫7日前まで	エトフェンプロックス	3A

* 農薬のラベルを確認し、総使用回数等に注意して散布してください。

